

### 3 研究報告

#### 報告 1

#### 「ロシア極東経済の新しい動き ～大阪商工会議所ロシアミッ ションの報告を含めて～」

報告者 恩田 久雄氏(兵庫大学経済情報学部教授)

先程、世話人代表の吉成先生から図們江プロジェクトについても報告せよということでしたが、当初の予定は図們江でなく、今、司会の方からお話がありましたように、大商のミッションの視察結果を主にということで、これに基づきましていろいろ考えておりました。ただ、吉成大先生のご命令ですので、一言、私のこの図們江プロジェクトに対する考え方を。私も実はロシア領のハサンの方から、ウラジオストークからヘリコプターをチャーターして現地を見ました。吉成先生のご紹介にありましたように、簡単に言えば何にもないところ。こんなところで国連が300億ドルをベースにした大計画ができるのかと。日本、韓国の資金に大いに期待をして、中国、ロシアの労働力その他を組み合わせるといふ、構想たるやまことに結構なのですが、なかなか困難だと。ただし、このプロジェクトの持つ北朝鮮へのインパクトというものは…。ご存じの北朝鮮はああいうお国柄で、国際的な孤立化というものに何とか歯止めをかけないと、世界平和のためにも北東アジアの円満な経済交流のためにもよろしくないということで、北朝鮮を国際舞台に引き止めるといいますか、入れるといいますか、その意味が非常にある大きなプロジェクトです。しかも国連主導ということですので、日本はあくまでも国連のこの動きに歩調を合わせて、技術あるいは資金を提供して、10～20年の先を見てこのプロジェクトに協力していくという姿勢は必要だと思っております。そのことだけを図們江については少し申し上げます。

以下、予定に従いまして、「極東ロシア経済調査団報告書」について、持ち時間もまことに限られておりますので、おそらく、このポイントのところだけを補足説明申し上げるといふ格好になるかと思います。

まずこの報告書は、大阪商工会議所国際部の太田さんという…。今日、見えていますか？ あそこに見えています。手を挙げられました。大変有能な若手



の国際部員の方ですが、全文を書かれまして、私が監修を申し上げたということです。これについて申し上げてみたいと思います。

それから、あとの方で数分だけでも、皆さんの質問、ご意見を受ける時間を割きたいと思います。大体こういうフォーラムでお話を申し上げますと、終わったあとのコーヒートークのときだとか何かで、「あなたのこの話のこの部分でちょっと意見を言いたかったのだが」などというのがまずまず出ます。たとえ限られた時間でもそういうことのないように、質疑応答の時間を少なくとも2時20分くらいからもうけたいと思いますので、よろしくご協力をお願いします。

まず、この報告書の「1. 総括」のところ。「投資環境としての極東ロシアの現状は、なおかつ当分厳しくて、現時点では依然として慎重を期さなければならない」、これはまさにそのとおりです。およそ投資をするのに慎重でなくていいというようなものはないはず。ただロシアに対しては、欧米、特にアメリカ、ドイツに比べると、日本企業、場合によっては日本政府も含めまして、法律的な対策・研究が不十分だということを感じます。そのために、日本企業が事故に遭って撤退というような方が多いように思います。私も三十数年前から、吉成先生のお話がありましたように、ロシア、モスクワに初めて参りましたが、当時の日本のビジネスマンというものは、もっといろいろ突っ込んで深く、艱難辛苦に耐えながら法律の研究からやったものですが、どうもこのごろの日本のビジネスマンは、ビジネスマン魂が少し希薄になっているのではないかと。私には企業で話したことがあります。そういうことを申し上げます。

それから、「法制度の未整備」、「税制をはじめとする法体系が十分に整備されていない」、これはこのとおりです。特に税法です。ロシアはちょっと変わっていきまして、中央政府と地方政府がそれぞれ税金の法律を決めてやってよらしいということになっているのです。そのために、税金の数を数えますと40いくつあります。言われるとおりに税金を納めたら、稼いだ利益の倍ぐらい税金でもっていかれるということですから、「税金というものはいかに払わないように工夫するかというものだ」ということをロシア人は公然と書いておられます。事実、国税庁が決めた諸税額に対する納税額というのは、4～5割ということなのです。

また、5か月足らず首相だったキリエンコ首相の施政演説第1回目の中に、「ロシアには税金の対象にならない事業が多すぎる」、GDPに載らない事業が多すぎると。これを「影の経済」「地下経済」と言っているのですが、それが大体キリエンコさんの話で「35%ある」と言っております。日本のロシア東欧貿易会では、「50%はあるだろう」と言われておまして、ロシアの統計数字の位置づけという点をしっかり踏まえておきませんと、極東の方もそうですが、モスクワやサンクトペテルブルクへ行くと、こんなに皆さん豊かなのに、何であんなにGDPが下がっているのかと、統計数値と生活実感というものにずいぶん格差があります。これは今申し上げた統計に載らない実態があるということなのです。

ロシアの統計やソ連の統計は昔から事実を反映していない、そういう点では中国の方がよっぽど統計がしっかりしているというのはよく認められているのですが、これに関連してアネクトが一つあります。ロシアで100gのレモンから何gのジュースが取れるかというコンテストがありました。最初、日本の若者が紹介されまして、日本のカラチスト、空手使いであると。100gのレモンを「やぁ！」と絞って「80g」と。次、ロシアの若者、胸にロシア国家統計委員会のゼッケンを付けた若者が「やぁ！」と絞りました。「40gです」と。少しお年寄りのロシア人が出てきました。胸にソ連邦国家統計委員会のゼッケンです。「やぁっ！」と絞り「150gのジュースが取れました」、こういうことなのです。おわかりのように、ソ連時代には大変過大にソ連の国力を示す数字を発表していた。ロシア時代は主に税金が怖いから、少なめに少なめに皆

さん申告しますから、こういうことになってしまうというのです。アネクトのお話をすると、とても20分では足りません。20時間ぐらいいただきたいくらいロシア人はアネクトが好きです。

それはさておきまして、次、「の市場経済への不慣れ」。これはこのとおりです。そこで、日本政府が指導して、対ロシアの知的支援というものを大変熱心に行っています。日本センターあるいは日本経営教育センターというものが、モスクワに2か所、ハバロフスク1か所、ウラジオ1か所、ユジノサハリンスク1か所、ウクライナはキエフ、キルギスはビシュケフとございます。私もそのうち5か所で貿易論、貿易実務講座の講師団長をここ数年来務めております。そういうことで、日本政府が非常にこの点では熱心に協力している。

「マーケットの小ささ」というのがありますが、これはここにもありますが、サハリン大陸棚ガス石油開発の大きなプロジェクトがもうかなり進んでおり、来年7月、サハリン島の方からの産物が日本にも来ますしアメリカにも行きます。その関連のいろいろな産業がサハリンの経済をだいたい刺激して、活性化に役立っております。

の「進めぬ軍民転換」。特にハバロフスク地方はいろいろ遅れております。軍民転換がうまくいっていない。これは大軍需産業地域でしたので、そういうことになっております。

「自然条件によるコスト高」。これはご存じのように、7000キロに及ぶロシア極東からモスクワ・サンクトの鉄道では、大変内陸コストが高くつく。そこでロシアとしては日本海を隔てた日本、朝鮮半島という、あるいはそれをオホーツク海から突き抜けた環太平洋経済圏に向かったの経済活動を活発化しようという動きがあるわけです。

「インフラの未整備」。「電力をはじめ」と書いてありますが、その電力につきまして、最近、大変画期的な日本側の動きがあります。ご存じのように、特に沿海地方、ハバロフスク地方あたりの発電所が皆旧式で、動かしてもあまり効率がよくないというようなことで、日本のテレビにもよく停電騒ぎが伝えられておりますが、この旧式発電所を廃棄して、新式の発電所を日本の技術資金で作って、そのことによって削減されたCO<sub>2</sub>を、日本が国際的な義務を負っていますCO

2の削減義務分に含める。つまり、ロシアが節約した分を日本が買い取るというかたちで大きなプロジェクトを進める動きがあり、日本の複数の企業グループが契約に調印しました。このことは最近、『NHKスペシャル』でも報道されております。

次の2ページの「資金不足」。これはまさにこのとおりで、今回参りました極東地域のどこでも「資金が足りない、資金が足りない」というお話だけでした。唯一、ユジノサハリンスクのサハリンプロジェクトを主管しております機関のたしか局長さんだけが、「すでにこのサハリンプロジェクトには5億ドルの資金が投下されていて、効果も出つつある。雇用効果も上がっている。今年度の市の予算は15%アップしている」とご婦人の局長さんが胸を張っておられました。こういふことで、サハリンはちょっとこれから、ハバロフスクやウラジオストークの方に比べますと、様変わりと言っていいくらいの活況を呈するはずです。アメリカ村というものがユジノサハリンスクの郊外に森林を切り開きできています。アメリカ人のサハリンプロジェクトにきた技術者その他を収容するということですが、最大1000人を収容するというので、発電はもちろん自家発電、水道もそこで自給と、完全な別天地を作りつつあります。

資金不足のために思いがけず日本の進出中小企業が痛い目に遭って、極端な場合は経営権を奪われるとか、損を出して撤退するとかいうことがあります。これも先程冒頭申し上げましたが、欧米に比べると、先方の法的基盤その他もろもろの基礎的なところの調査あるいは人的関係というものに十分な配慮がなかったために起きたと言っていふようなケースがあります。簡単に言えば、日本でもずいぶん一旗組というのがこの92～93年ごろから出ております。特に北陸、北海道の方から。そういう人たちが早とちりの進出をしたために失敗していると言いかまわないようなケースもあるように思います。

その下の「沿海地方」。ここでは項目しか書いていませんが、いずれもこのとおりです。中小型船、米作用の機械の供給、住宅用の中古建設機械の供給などいろいろ要望がありました。ナホトカではアメリカと韓国が自由特区を造成するというので、場所が決まっております。その地域の電力、通信網の設置、上下水道の造成、これは日本企業が入札に参加して、40億円で

落札というようなことがあります。

総じて言いますと、前回の第1回目はロシアとはどんなところかということで、92年のウラジオストークの開放直後の6年前に見に行ったことをお話ししましたが、今回は大阪商工会議所傘下の中小企業の皆さんが何か具体的にビジネスの種が見つからないかという観点からいらしたというようなこともあり、先方からもかなり具体的に出てきました。今申し上げましたようなことのほかに、クリーニング業、運送業、建物の内外装の改修といったプランが出てきましたが、資金的な面では、これも知る人ぞ知るですが、すでにハバロフスクとウラジオストークに「ロシア極東東シベリア投資基金」というものを、日本（外務省が窓口です）と欧州復興開発銀行と共同で、5000万ドルの資金を準備して投資するというので、実績がすでに5つあります。まだ資金に余裕があるので、これはと思うプロジェクトをぜひ紹介してくれということなのです。

話をどんどん飛ばしますが、ハバロフスクでは特にこの敦賀、舞鶴、それから新潟、富山までの海路、空路の近さを利用して、「日本への観光産業志望者が非常に多い。そのために大学に観光学科を設けてやっている。ホテル経営のノウハウといものもぜひ日本から得たい」ということも言っておりました。ご存じと思いますが、2年前の8月、韓国の現代グループがウラジオストークに現代ホテルというのを作りました。これは今、ウラジオで一番進んだいいホテルです。それから、ウラジオストークの総領事の広瀬さんから伺った話ですが、今、沿海地方で日本語を学んでいる人は、極東大学の学生はじめ2000人いるそうです。「教材とか教師の不足とかいろいろ問題はあるが、大変日本語習得熱が高い。何とか日本としても協力したい」ということで、日本センターには常設の日本語講座が開かれて、教師は外務省の外郭団体から派遣ということになっております。そのほかにもプライベートにウラジオストークへいらして、これはご婦人も含めてですが、中高年で私塾を開き、それぞれ何十人かずつ日本語を教えておられるという方もいらっしゃいます。別に、お金もうけにはなりません滞費ぐらいいは出るというお話は聞いております。万一、この皆さんの中で、「では、私も」という方がおられましたら、一声おっしゃっていただければ、外務省の然るべき筋にご連絡申し上げます。

もう時間がありませんので、話を飛ばします。三十数年前、私が初めてモスクワに行ったところから今日までずっと、ロシア人の日本人に対する気持ちはずいぶん好意的です。日本、および日本人というものに対する感じは大変いいです。そのために日本語も一生懸命やろうということになるのです。それにひきかえ、我が日本人のロシア人、あるいはロシアに対する気持ちは、ご存じのように全体として冷たいです。今のところ、今までのところロシアの片思いです。隣人としてまともなつきあいをするためには、少なくとも同じぐらいの温度で、お互いに相手を尊重し、相手を学ぶという姿勢が必要ではないかと。ロシアは核大国、軍事大国うんぬんという点が非常に強調されておりますが、私の見たところ文化大国でもあります。これはもうロシア文学からそれこそバレエ、オペラ、あるいはサーカスを含めまして、身近なところからよくわかることです。最近のモスクワ、ここ数年のモスクワは、劇場がずいぶん新設されています。かつて劇場であったところがソ連末期、劇場ではやっていけないということで、物置になったり小学校みたいになったりしていましたが、そういったところもまた劇場として復活しています。こんなに劇場の増改築が進んでいる国、この一つをとっても文化大国の資格十分と思います。それが今のところ日本ではあまりよく知られていない、まるでフランケンシュタインかゴジラの住むロシアみたいな感じで受け取られているのが、これからの交流を考えるうえで差し障りがあります。

そういう意味で、受付の方で配ったと思いますが、このパンフレット、ロシア極東大学、これはウラジオストークにある大学で100年以上の歴史がありますが、ここが函館に5年前から分校を作っておられるのです。4年制のロシア語中心の学科と2年制の学科がありますが、日本人にもっとロシア語、ロシア文化に親しんでもらおうということで作っているものです。もしお持ちでない方は、これを帰りにぜひお持ちください。ここが来年4月から、企業の若手社員を中心にロシア語のインテンシブコース、強化コースです。これを開くということを決められました。今、その募集条件その他をこの函館校が煮詰めておられます。これは3か月間缶詰で向こうのペンションに住み込んで、朝から晩までロシア人も一緒に住み込んでロシア語中心に勉強するというのですが、こういうのも一つの

ロシア側の日本に対する片思いを是正する手段かと思えます。ちなみに、ここのインテンシブコースに私も講師の一人として環日本海経済を講義するということをやっています。

以上です。実はもろもろ予定していたことがたくさんあるのです。さっきのロシアはフランケンシュタインばかりかみたいな話があちこちで伝わっているのですが、私が一つ申し上げたいのは、日本でもあるいは国際的に、ビジネスマンというのはいいビジネスをやっているときは黙ってやっているものなのです。男は黙ってビールを飲むだけではなくて、ビジネスマンはいいビジネスをやっているときは黙っているものなのです。何か失敗した、しくじった、相手によってちょっと痛い目に遭ったというようなときには、そればかり言いふらすものなのです。日本のテレビでも新聞でもそのような話がこのごろ出ています。

例えば、サンタリゾートホテルというのがユジノサハリンスクにあります。これは東京の大陸貿易がロシアの会社と一緒に作った合弁企業です。我々この7月、今の太田さんなんかと一緒にいったときに泊まったホテルですが、帰ってきて1~2か月したら、日本人の経営者が追い返されたというニュースが伝わってまいりました。何かかと思って聞いたのですが、これは私に言わせれば法的な研究といいますが、いろいろと基礎的な勉強に抜かりがあったと言わざるをえませぬ。ちなみにこの大陸貿易は今から7~8年前からイルクーツクの近くのイギルマ村にイギルマ大陸という木材の合弁会社を作って、大変うまくいっています。これもNHKのテレビで報道された日口合弁のモデルケースということで、今でも大変うまくいっています。同じ大陸貿易がなぜホテルで失敗したかというところを、私自身ももう少し勉強してみたいと思います。

木材で思い出しました。これもすでにNHKがモデルケースとして放送していますので社名を出しますが、住友商事が沿海地方のチェルムイという場所にチェルムイレスという会社を作りました。また、プラスタンという会社も作って、これも大変うまくいっています。我が日本の広瀬総領事をはじめとして、昨年NHKがここを視察されたことがあります。しかし、こういううまくいっている例というのは、あまりその社員なりは語りたがりません。こうやってうまく

いったというのをビジネスマンのライバルが聞くと、  
それでは我が方もということでライバルを増やすと  
いう観点からでしょうか。要するに、うまくいっている  
ケースはあまり伝わっていないということを、私は  
強調したいと思います。